

暇と退屈の園芸日記

ある日 「割れた植木鉢 1」



陶器の植木鉢も古くなると割れることが多くなる。そこで割れた植木鉢を接着剤でくっつけて再生させて使うことにしている。またその接着した面から再び割れることがあるので、ガムテープで補強している。しかし、どうもガムテープが痛々しくて整形外科の患者さん（失礼！）のように見えてどうにかしたで透明の幅広ガムテープを発見した。普通の

いと考えていたが、先日おなじみの百円ショップ（百均）で透明の幅広ガムテープを発見した。普通のガムテープから透明テープに変えてみると見違えるように見映えがよくなった。これで重傷を負った植木鉢たちも満足であろう。ところが一つだけ、破片がどうしても見つからない植木鉢がある。植木鉢が割れた場合も必ず破片を保管していたはずなのに、くやしくてたまらない。一部欠けただけでは捨てるわけにはいかない。



ある日 「割れた植木鉢 2」



昨日百円ショップに行っ

たら、セメントを百円で売っていた。これなら植木鉢の補修ができるのではないかと補修にチャレンジした。粉状のセメントに水を入れ、粘土細工のように練って補修箇所に塗り固めた。説明書に 24 時間で固まると書いてあるので、今日補修箇所を見たら意外と固く固まっている。補修箇所が外れてしまうのではないかと、おそろおそろ確かめてみたら意外に丈夫で外れない。とても不格好で他人様に見せられないが、充分実用に耐える。ちなみに小さいころの私の家族は何でも自分のことは自分でという習慣があったので、今でもこのような面倒なことでもあまり苦にしない。この写真は 50 年（サバを読んで）以上前の私が小学校 2 年生の始業式のときの写真であるが、この草履は自分で竹の皮で編んだものである。1 年生の入学式のとき履いた藁製の草履がドン臭くて嫌いだった。そこで 2 年生のときはお洒落（だと思っていた）な竹の皮の草履の作り方を親に教えてもらって自分で作った。それ



が写真に写ってとてもうれしかったことを覚えている。会社に入ってから目立たない仕事を一生懸命やって器用貧乏とも言われたが、それはそれで自分に合っていてとても楽しかった。雀百まで人間の性格は幾つになっても変わらないものである。

ある日 「防草シート」

わが家は東西の狭い通路に砂利を敷いて不審者が入って来たとき音がするようになっている。しかし、もう 35 年も経つので、砂利が沈み、土やほこりが積もったからか、雑草が砂利の隙間から生えるようになり、どうかしなければと考えていた。

ホームセンターに行ったら、よく空き地に敷いてある「防草シート」が売られていたので、浅知恵を発揮して、砂利を一旦掘り起こしてその下に防草シートを敷いたら雑草が生えないのではないかと思いついた。連日の猛暑のなかで 2 週間かけてようやく今日めでたく完工式を迎えた。これで東西両側の通路の砂利の下にすべて防草シートが敷かれた。

意外に大変な作業を熱中症警報のなかでよくやったと自分でも感心している。



しかし、防草シートの説明書には 5 年ほどしか効果がないと書いてある。忘れるといけないので、壁際に「防草シートを 5 年後に再度埋め込むこと。2020 年 8 月 15 日」と書いたプラ製ラベルを張り付けて、やれやれと一安心したのだが、一体 5 年後にそれを誰がやるのだろうか。



ある日 「敷石はがし」

わが家の芝生の庭の真ん中には、東西に通路用として 12 枚の正方形の敷石が敷いてあるのだが、永年管理していなかったので敷石の上に芝生が覆ってしまい、見苦しい状態になってしまっている。今では子どもも犬もいなくなり、ほとんど庭を歩く人もいないので、思い切って敷石をはがすことを思い立った。

簡単そうに見えたのだが、そこは思いつきの悲しさ、はがすだけで三日かかり、その穴を埋める土を入れるのにさらに 1 日かかってしまい、やっと今日めでたく完工式を迎えた。しかし、今まできれいに刈っていた芝生が痛々しく傷ついてしまい、その穴を周辺から伸びてくる芝生に覆われるのは何カ月かかるのだろうか。もしかしたら 1 年先になるかもしれない。

れいになるまで可哀そうな状態が続く。芝生よ我慢してくれ。そしてがんばれ。



ある日 「木を切る」

庭木のうちの 1 本が、背が少し高くなったのでその幹を切ることにした。我が家の庭には立ち木が何本かあるが私が一人で剪定をしている。以前は梯子を使って剪定していたのだが、体力がなくなりそれが危険になったので梯子を使わずに剪定可能な程度に枝や幹を切り詰めている。しかし、一旦かなり巨木化した立ち木を切り詰めることはかなり苦勞する。太い幹や枝を切るときは、鋸が余裕をもって動くように鋸を動かす隙間を作って、また焦らず時間をかけてやることにしている。そうしないと鋸が傷んで欠けてしまうこ

とがあるので気を付けている。昔から、道具をうまく使えない人、道具を傷める人は、仕事ができない人であると言われている。



直径 5 センチもある幹を三本切ったので時間はかかったがなんとかケガもせず一日

がかりで終了した。表面には「カルスメイト」という表面を保護する薬剤を塗るのがおすすめである。
剪定後が細菌に侵され枯れたり不格好になるのを防いでくれる優れものである。

ある日 「閑話休題」

- ・ どんぐりがコロナコロナと池に落ち
(きっとどじょうが助けてくれるよ)
- ・ 三蜜は東台^{ぞう}雑だと寺が言い
(日本の密教では、真言宗東寺の密教を東蜜、天台宗の密教を台密、その他宗派の密教を^{ぞうみつ}雑蜜という)
- ・ マスクすりゃ俺でもイケメンといい勝負
(そのうえサングラスもすれば完璧なイケメン)
- ・ コロナ禍でホストになる夢あきらめた
(自信があったのに・・・ クラスターのスターにはなりたくない)
- ・ 調味料忘れてコロナを心配し
(味を感じない)
- ・ 笑うなと落語家寄席で注意をし
(下手な落語家が真打ち昇進)
- ・ ワクチンの開発急げ認知症
(急いでください、発症しそうです)
- ・ ゴミ捨てでマスク同士が挨拶し
(あの人は誰?)
- ・ 安否確認される年だといま悟る
(安否確認するつもりが)

ある日 「避暑地からの帰還」

毎年のことであるが、鉢植えの植物は猛暑には耐えられないので、植木鉢を庭木の下や日陰に退避させている。今年の夏は極端な猛暑が続いたが、それでも季節は秋に向かって着



実に進んでいっているようだ。そこで避暑地で暑さを避けていた植木鉢たちを本来の場所に移動させることにした。ほとんどが無事であったが、なかには虫に食われているもの、枯れてしまったものもある。でも勢ぞろいした姿を久しぶりにみると、ほっとするやら、またやるべきことが増えたなと思ったりもする。

なお、不織布マスクの畳める植木鉢も元気である。汚れが目立つ？いや貫禄も出てきているといいたい。

なお、不織布マスクの畳める植木鉢も元気である。汚れが目立つ？

いや貫禄も出てきているといいたい。



ある日 「殖やす」

私は挿し木が好きで、何でも土に挿しておいてそれがついて成長するのが楽しみである。母が好きでそれを私が見習ったことになるが、費

用がかからずに植物が殖えていくのが好きなのである。おカネが殖えてくれるともっと楽しいのだが、世の中そんな甘いものではないのでかわりで我慢せざるを得ない。

6月ごろに皐月の剪定をし、その切った小さな枝を挿し木にして、翌年花が咲きかけた時に小さな植木鉢に入れて、近所に人に差し上げることにしている。まず、挿した枝に新芽が出て根が生えないとだめなので



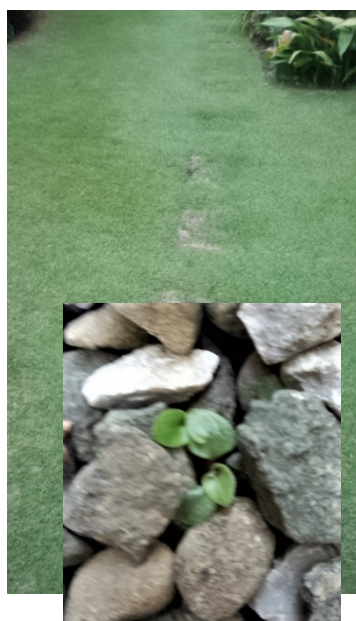
あるが、ついたかどうかは猛暑を乗り越えた今頃わかる。幸い今年も無事新芽を出しているのではと一安心である。鉢に植えかえる準備をしなくては。最近ではジフィーポッドという段ボールを柔らかくして固めたような素材でできた安いポットがあって、つきもよくそのまま植木鉢に植えられるので重宝している。

ある日 「傷だらけの芝生」

敷石をはがしたために傷だらけの芝生は心える。これならろう。今日芝生

傷は浅い、がんばれと。

しかし、世の中は甘くはない。貼ってその上に砂利を敷いたら端っこに雑草が生えていた。端の方は完全ではないようだ。方のシートをもっと丁寧に敷意を新たにす。



防草シートをのに、今日見た防草シートも5年後には端の

かなければ決



ある日 「秋を待つ」

避暑地から帰ってきた植物たちもそれぞれの思いで秋を待っている。これはギボシであるが、秋を待ちかね過ぎてこんなに首が長くなってしまった。思案投げ首で哲学していたから首が長くなったのか。花芽を先頭に立てて天上高く花を咲かせようとしている。



よそから飛んできて主に断りもなくちゃっかり花まで咲かせているところがかわいい。

これは庭の隅に生えていたのを鉢植えにしたものである。種を鳥が運んできたらしい。タイサンボクである。秋を待つて種をつけた。また鳥がこれを食べてどこかに種を運ぶのだろう。自然のサイクルである。



ある日 「挿し木の植え替え」

挿し木がついたので、植木鉢に植え替えて、来春花を咲かせる準備をする。ご近所の人たちに差し上げる準備である。「差し上げます。花が咲き終わってお邪魔でしたらここに置いておいてください」という札を貼っておいたら、戻ってくる鉢が増えた。みなさん花が終わったあと困っていたのだとわかってよかった。



ついに、遠く から移民してきていたベゴニア（？）も隅っこで遠慮していたので独立させてあげた。例のセメントで補修した鉢にした。